

I 教育課程に関するアンケート結果(研究局)

1 はじめに

令和4年度入学生より、新教育課程が施行となった。これにより評価の部分が大きく変更となり、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点から3観点評価となった。3観点については、次のように大きく定義されている。

- (1)「知識・技能(技術)」:各教科等の個別の知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを既有的知識および性能と関連づけたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。
- (2)「思考・判断・表現」:各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価する。
- (3)「主体的に学習に取り組む態度」:①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組みを行おうとする側面」と②①の粘り強い取組みを行う中で、「自らの学習を調整しようとする側面」の2つの側面を評価する。

またそれぞれの評価について、「各教科・科目の観点別学習状況において、各教科・科目の目標に基づき、学校が生徒や地域の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。」とある。

今回は令和4年度入学生の1年次における「総合実習」において、どのような評価材料を用い、どのような評価基準で成績を出したかを、ABCの割合を含めて傾向を調査した。農業関係高校全国368校のうち、358校から回答を得ることができた。

2 評価材料について

(1) 知識・技術

実験実習の取組・農業クラブ活動での取組・ワークシートの取組・実習ノートの記録・ポスター・授業プリント・農業鑑定テスト・技術点・実技試験・レポート・定期考査・記録簿・機械・器具の使い方・農業クラブ級位検定・生産工程の管理・農作物の管理技術点

(2) 思考・判断

行動記録観察・実験実習の取組・農業クラブ活動での取組・ワークシートの取組・ワークシートや実習ノートに考えや変容が見られるか・ポスターの内容・提出レポート・農業鑑定事前学習プリント・授業プリント・意見発表・実績発表原稿および発表・実習手帳・役割理解・実習記録簿・小テスト・柏農祭・田植え・稲刈り・口頭試問・グループ活動

(3) 主体的に学習に取り組む態度

実験実習の取組・農業クラブ活動での取組・ワークシートの取組・授業での取組の様子・授業プリント記入状況・態度点・出席・レポート・発表活動・農業鑑定事前学習・記録簿の記録・意欲や協働的な態度・実習前の準備と後片付け・規定の服装で作業しているか・自身の学習活動を農業クラブ活動に結び付けて参加しているか・自己評価

3 令和4年度入学生で実施している総合実習の評価状況について

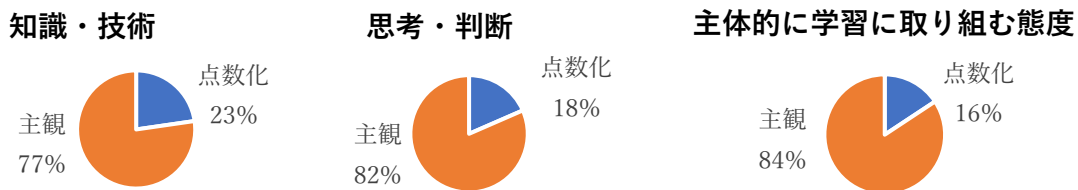


図1 評価基準の点数化及び主観の割合 (全国平均)

《点数》			《点数》		
A	B	C	A	B	C
100～68	67～48	47～0	80 以上	80～30	30 未満
85 以上	84～30	30 未満	100～80	79～30	29～0
80 以上	80～50	50 未満	100～80	80～40	40～0
100～80	79～45	44～0	《人数割合》		
100～80	79～31	29～0			
100～80	79～50	49～0	A	B	C
75 以上	75～50	50 未満	10～20%	70%	10%以下
80 以上	79～40	39 以下	20～30%	65～80%	0～5%
75 以上	74～35	34 以下	33.3%	33.3%	33.3%
70 以上	70～30	30 未満	7 割	3～6 割	3割未満

表1 ABC 評価点数規定及び人数割合

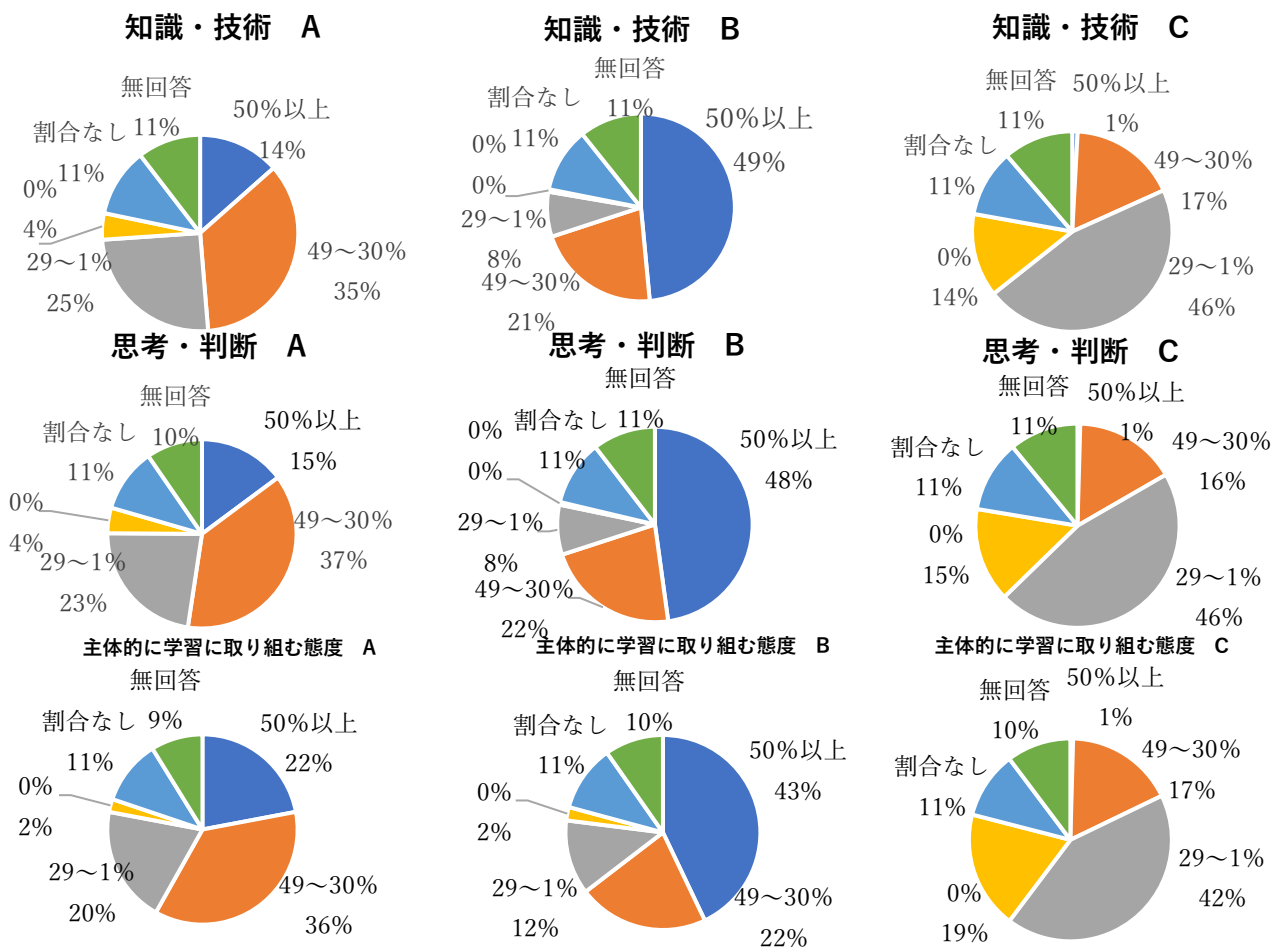


図2 ABC 評価人数割合 (全国平均)

4 学習指導要領改訂における農業科目への意見・要望について

- ・全科目：観点別評価への対応に苦慮している。教科書が発行されない科目が多すぎる。
- ・植物バイオテクノロジー：実験・実習の記載が少ない。理科の「生物」のような授業内容になりがちである。植物を利用した新技術の記載があると他教科（生物など）との差別化ができる。
- ・分野構成の「資源活用や地域振興」に関連する科目が2科目しかないので分野構成として適正なのか疑問がある。他分野と関連があり科目も連動しているのだろうが、分野構成になっている以上、その分野としての科目設置はある程度必要だと考える。
- ・学校設定科目を少なくする傾向にあるが、農業の科目数が少ない為、学校設定科目を設定しないと同じ科目ばかりになってしまう。
- ・新学習指導要領では、科目「農業機械」と「農業と情報」についてはプロジェクト学習の取組は実施しない方向であるが、その他の科目においては実施が定められている。しかし、都道府県教育委員会による標準単位の設定では、地域によってまちまちであり、特に滋賀県においては2単位での科目設定が主流で、座学のみでプロジェクト学習にも工夫が必要であるように感じる。
- ・「農業と環境」は、農業科であることから仕方がないが、環境的な学習内容が乏しいと感じられる。近年、SDGs など世界的に取り組むべき課題について取り上げられているが、農業の視点から解決に向け取り組む（例えば課題研究）の基礎、基本が学べる仕組みが欲しい。
- ・大阪府は知識・技能、思考判断表現、主体的な学ぶ力が1：1：1であり、大阪府独自基準があるので、撤廃頂きたい。座学中心と実習中心の科目では特性もあり、それに応じた評価方法があるべき。主体的に学ぶ力に比重が強すぎるため、教員の主観が入った評価となる可能性がより強くなったように思う。ルーブリック評価も結局は評価する人によって主観が強くなる傾向があるため、評価の一貫性を担保するためには基準合わせが必要になる。担当が一人ならばその教員の主観でつけることになるため、担当教員によって大きく評価がずれる危険がある。
- ・「動物バイオテクノロジー」が「飼育と環境」へ分類整理され、「畜産」を補完する内容として、家畜人工授精技術や家畜受精卵移植技術などを学習することになっているが令和5年度になっても教科書はなく、その全容が分からない。学習指導要領が改訂するたびに農業科目は減っている。
- ・食品製造：HACCP・ISOについてもっと詳しく説明してほしい。また、HACCPやISO導入にはどのような利点や欠点があるのか、説明してほしい。
- ・農業土木設計で扱われる水理・土質・製図の内容を独立科目として欲しい。また、農業土木設計をI・IIとして、力学と鉄筋コンクリートに分割すれば良いと思う。
- ・農業と環境で栽培品目（葉菜類、根菜類）を増やしても良いのではないかな。
- ・定期考査を実施する科目は、観点別評価に係る出題には下記のような表記をしている。
1 ○○○○（「知識・技能」） 2 △△△△（「思考・判断・表現」）
- ・農業高校では、以前より3観点評価と同じような評価をしているので、敢えてAとかBといった面倒な評価基準は必要ないと思う。
- ・「農業機械」に無線技士や無線、電波なども必要ではないかな。
- ・次年度開講が予定されている科目において、今年度の教科書選定でも教科書が出てきていないものがある。また、第2部の教科書や準教科書を使用している科目もあり、学習指導要領改訂に則った適切な学習指導を展開するためにも、第1部に該当する教科書を示してほしい。
- ・①栽培と環境：次の改訂で安易に消えることがないようにしてほしい。一旦、教育課程に組み込むと、学校の特色づくりと深く関わる。

- ②生物活用：40人授業、1時間展開、実験実習費がきびしい学校もある。安価でシンプルな実習、理論と各論の精選など、特に教科書作成に留意してほしい。
- ③地域資源活用：教科書作成に留意してほしい。教科書作成とのタイムラグが大きくて困惑している。理論・総論の焦点化・充実を望む。単なる事例集・資料集になつては科目・教科書として不十分である。
- ・農業経営：学校の実態として4単位を履修させるのは大変である。また、履修科目としたいが。最小単位が4単位のものがあり、学校設定科目を設置するなどして実施しているものがある。
 - ・①全ての科目に教科書を複数用意して頂きたい。②新導入科目を作るならば「教科書」を作っていただきたい。準教科書などに多いが、教科名の表紙のみを変更し内容はほぼ同じ。
 - ・地域資源活用の教科書の出版予定がないと聞くと、自分たちで指導要領に合った教材を選定するには難しい。改訂と同時に新しい教科書が出版されるよう配慮願いたい。
 - ・地域資源活用：地域資源活用の授業展開としては、地域の農産物や観光、人材を介してどのような農業・異業種連携・地域振興・情報発信が展開できるか手本となるモデルを示してほしい。
 - ・栽培と環境、飼育と環境のように、以前あった環境制御と同様な内容を学習する科目が新設されたことは良いことだと思う。また、地域資源活用のように、社会のニーズに対応した科目が新設されたことも良いことだと思う。
 - ・新学習指導要領に準拠した教科書の発行：農業科の教科書取扱出版社が1社（実教）となったが、本年度教科書見本が公表されていない「地域資源環境」等の新しい科目名の教科書について、令和5年7月の令和6年度使用教科書採択時点では、ご対応いただくよう、出版社に要望していただきたい。
 - ・「造園施工管理」「造園植栽」の2つの科目は新設科目であるが教科書の発行がされていない。文部科学省の著作教科書の発行が新教育課程の開始年に間に合わないのは大変憂慮される事態だと感じる。
 - ・それぞれの科目の指導項目に「プロジェクト学習」が含まれる。科目「農業と環境」で触れているのでわざわざ全ての科目に記載する必要はないのではないかと思う。
 - ・「農業と環境」：環境分野の必要性・重要性は理解できるが、以前の農業科学基礎と環境科学基礎に分けて内容を区別した方が教えやすい。学科の特徴によって農業系か環境系か教科書を選んだ方がよい。同様のことが「栽培と環境」「飼育と環境」でもいえる。
 - ・「生物活用」「地域資源活用」：内容の幅が広く、興味深い内容であるが故に教科書的な内容以外に栽培・加工・地域との連携など総合的な指導が必要である。そのため、通常の農業科目以上に指導力が必要であるが、教員が不足し、非常勤講師や講師が多くなっている現状では指導が困難な科目となっている。
 - ・「植物バイオテクノロジー」：植物バイオテクノロジーが科目として、導入された当初に比べ、技術が高度化し、高等学校の学習レベルでは扱いにくくなっている。また、最新の技術に対応した授業を展開しようとする、機器や試薬が高価であることも障壁となる。植物の遺伝や繁殖といった基礎的内容を学習の中心にすると、理科の「生物」との区別が難しい、産業と結びついた専門科目として何を教えるべきか検討が必要。種苗法の改正や種の保存の観点から、品種改良や植物体の増殖を容易に行えない現状の中で、生徒が興味・関心を持つ題材を用意することが難しくなっている。
 - ・「情報」の科目を「農業と情報」で代替する場合、基本的な知識と技術及び、農業関連分野の情報機器の活用方法（スマート農業など）については指導できるが、プログラミングなどの専門的な知識と技術の指導を、どのように行うか苦労しており、研修などの機会があるとい良い。
 - ・①検定教科書が無い全科目⇒新学習指導要領下で、不安感が大きい。特に新設された科目では、統一された学びの実施と評価規準が曖昧になる。
 - ・②農業と環境や総合実習等⇒専攻別に分かれた班別実習の機会では、評価規準（基準）の在り方や設定、適切な評価実施に苦慮している。他校の状況や望ましい考え方を知りたい。

- ③実習を伴う全科目⇒天候不順や農作物の状況の影響が大きく、年間（学期）評価計画が設定しにくい。
急な変更と基準の見直しも随時必要となり、調整が不安定になりやすい。

5 おわりに

新教育課程が施行され新しい評価方法となり、日頃より適正な評価をしてはいるものの、ABCとその根拠を明確にすることを改めて意識しました。来年度、再来年度を経て全学年でABC評価に移行します。授業内での生徒の評価を適正に行えるよう、記録と職員間の情報共有は重要であると感じています。次年度以降も全国的な動向を把握し、ABCの割合等を情報共有できればと思います。アンケートにご協力いただきまして心より感謝申し上げます。

最後に、今回の調査で多くの学校から具体的な回答を得ることができました。また直接関わることできた全国の先生方から、各校の様子を知りたいと思っていたので、この調査結果を参考にしたいとお話をいただきました。いただいた回答を全て載せることはできませんが、かなり参考になると感じた部分もあったため、情報共有を兼ねて、参考資料として抜粋したものを紹介したいと思います。

《参考資料》 ※県名は省いています。

【知識・技術】

- ①実習点 実習の目的を理解し、技術が身についているか
A：実習の目的を理解し、技術が身につけられており、応用できる。
B：実習の目的を理解し、技術が身につけている。C：実習の目的を理解できない、技術が身につけていない。
- ②レポート レポートについて、適切に用語を使用し、手順や結果が記載されているか
A：適切に用語を使い、手順や結果が正しくまとめられている。
B：手順や結果がだいたいまとめられている。C：手順や結果のまとめが不十分である。
- ③農業鑑定テスト 農業鑑定テスト100点を40点換算し、A：32点以上 B：31～15点 C：14点以下
- ④レポート 40点評価し、A：32点以上 B：31～15点 C：14点以下
- ⑤中間考査、期末考査、小テスト、実技点 A：合計が70点以上 B：35点～70点未満 C：35点未満
- ⑥実習レポート
A：実習の目的・内容・注意点・感想が適切にまとめられている
B：実習の課題を理解した内容であるが、記載が不十分である。
C：実習の課題を理解しておらず、記載内容も当を得ていない。
- ⑦実習への取組
A：実習の課題と目的を正しく理解し、指示された内容に取り組むことで知識・技能を高めることが出来る。
B：実習の課題と目的を理解し、指示内容に正しく取り組むことが出来る。
C：実習の課題と目的を理解せず、指示内容を正しく遂行できない。
- ⑧農業鑑定テスト 合格点を設定し、
A：合格点以上を等差で分割し上位2割 B：合格点に達していた C：合格点に達しなかった
- ⑨技術点 セル苗のポット上げにおいて、速度及び指示内容が
A：十分なもの B：いずれか一方が不十分なもの C：両方不十分なもの
- ⑩技術点 A：達成状況75%以上 B：達成状況40%以上75%未満 C：達成状況40%未満
- ⑪学習記録カード
A：栽培・飼育・加工に関する基礎的な知識を理解している。
B：栽培・飼育・加工に関する基礎的な知識をある程度理解している。C：Bを満たしていない。

⑫刈払機による除草作業

- A：刈払機の各部位の名称や機能を明確に理解している。危険性や安全な使用方法を明確に理解している。作業手順を明確に理解している。
- B：刈払機の各部位の名称や機能を理解している。危険性や安全な使用方法を理解している。作業手順を理解している。
- C：刈払機の各部位の名称や機能の理解が不十分で、補足や手立てが必要。危険性や安全な使用方法の理解が不十分で、補足や補助が必要。作業手順の理解が不十分で常に補足や補助が必要。

⑬せん定を適切に行い、使用する道具を適切に扱っているか。

- A：道具を正しく使い、不要な枝のせん定ができる。切り残しがない。
- B：道具を使い、不要な枝のせん定がおおむねできる。C：道具の使い方が不適切であり、せん定ができない。

⑭ダイコンの間引き

- A：残すべき苗を的確に選び、傷つけずに間引きができる。
- B：残すべき苗の基準があいまいなところはあるが、間引きを行うことができる。
- C：残すべき苗の基準があいまいで、間引きむらがある。

⑮農作物の管理技術点 例：花壇づくり

- A：周囲の植え付けの状況を判断して、定植ができる。B：適切な株間で植え付けができる。
- C：植え付けができていない。例：根っこが見えている、株間が適切でないなど。

⑯農作物の管理技術点 例ポット上げ

- A：時間内に一定の数量と丁寧なポット上げができています。B：丁寧なポット上げができています。
- C：適切なポット上げができていない。根が切れている。中心に植え付けができず、土に埋もれている等。

⑰農業鑑定学習内容の確認 農業鑑定の学習で覚えた語句や用語のうち、自分の言葉で説明できるものが

- A：10個以上ある。 B：5個以上ある。 C：4個未満である。

⑱実技点（道具の使用等）

- A：実習の内容が理解でき、道具を安全に使う工夫ができた。
- B：実習の内容が理解でき、道具などを使うことができた。
- C：実習の内容がだいたい理解でき、道具を使った。

⑲農業鑑定競技テスト A：校内代表 B：平均点 C：平均点以下

⑳課題（食品科学科）

- A：原料計算をし、計量することができる。B：原料計算又は計量のみしっかりできる。
- C：どちらともできない。

㉑柏農祭 A：行事の目的を理解 B：行事での役割 C：目標達成

【思考・判断】

①実習点 コミュニケーションをとりながら、協力して実習に取り組んでいるか

- A：積極的に協力しながら実習し、結果などもまとめることができる。
- B：実習し、結果などもまとめることができる。C：結果などのまとめができていない。

②レポート 実習の結果から、考察が適切に行われているか

- A：実習の結果から、考察が適切に行われ、内容を発展させて考えることができる。
- B：実習の結果から、考察が適切に行われている。C：考察が不十分である。

③グループワークでの作業態度 A：30点に換算し、24点以上 B：23点から10点まで C：9点以下

- ④体験学習のワークシート A：30点に換算し、24点以上 B：23点から10点まで C：9点以下
⑤課題レポート、発表の様子、ノート点 A：合計が70点以上 B：35点～70点未満 C：35点未満
⑥実習レポート

A：実習内容とともに、問題点や解決策を考察できる。
B：実習内容に関して自分の考えを表現できる。C：実習に関する思考内容が記載されない。

⑦実習への取組み

A：実習課題に、自らの経験と知識により工夫して取り組むことが出来る。
B：実習課題に他の力を借りながら取り組むことが出来る。
C：実習内容を正しく理解せず、自己の解釈を誤る。

⑧農業鑑定テスト

農業鑑定で思考力を問う問題を設定し、A：完答 B：半分回答 C：全誤答

⑨実習・実習レポート 実習における課題点と解決策について検討させ

A：両方ともに適切 B：片方だけ適切 C：両方とも不適切。

⑩学習記録カード

A：実習を通して課題を発見することができる。B：実習を通して課題を発見することがある程度できる。
C：Bを満たしていない。

⑪中晩カンキツ類の摘果

A：中晩カンキツ類の葉果比を明確に理解し、適正な密度で摘果を行うことができる。
摘果対象となる果実の形態や特徴を明確に判断できる。作業手順を明確に理解している。
B：中晩カンキツ類の葉果比を理解し、適正な密度で摘果を行うことができる。
摘果対象となる果実の形態や特徴を判断できる。作業手順を理解している。
C：中晩カンキツ類の葉果比の理解が不十分で、補足や手立てが必要。
摘果対象となる果実の形態や特徴の判断が不十分で、補足や手立てが必要。
作業手順の理解が不十分で、常に補足や手立てが必要。

⑫せん定作業において、GAP活動に関する課題について考えている。

A：ほ場や施設のリスクを5つ以上挙げることができ、理由が妥当である。
B：ほ場や施設のリスクを3つ以上挙げることができ、理由が説明できる。
C：ほ場や施設のリスクを2つ以下しか挙げることができなかった。

⑬農業鑑定ノートの作成

A：全ての内容を記入し、内容を理解している。B：名称をまとめることができた。
C：他のものと写真から比較することが難しい。

⑭授業ノートやプリント類の記入

A：板書だけでなく、説明や補足事項などが記載できている。B：板書、プリントに記載できている。
C：板書、プリントの記載が完全にできていない。

⑮自己評価と感想文の記入

A：適切な自己分析ができているか。コメントの記入が適切か。職員と生徒の評価が一致しているか。
B：評価ができているか。コメントが記入されているか。
C：適切な自己評価ができていない。評価が記入できていないなど。

⑯農業鑑定課題プリント

A：全ての欄を記入しており、図と言葉の両方で分かりやすくまとめている。
B：全ての欄を記入している。C：記入していない欄がある。

⑰実技点（作品の仕上げ、実習成果等）

- A：仕上げや実習成果の目標を十分達成し、他者に教えることができた。
B：仕上げや実習成果の目標を達成できた。C：仕上げや実習に取り組むことができた。

⑱実習レポート

- A：文字だけでなく、絵や図を用いてまとめている。また、関連する内容を自主的に調べ記載できている。
B：実施した内容をまとめている。C：提出遅れ・未提出

⑲実習記録簿（食品科学科）

- A：ジャム製造で、糖度から仕上げ判定ができる。B：糖度は測定できるが仕上げ判定ができない。
C：糖度は測定できるが、仕上げ判定との関連性はわからない。

⑳実習手帳 A：キレイに書く。B：全て書く。C：空白が目立つ。

㉑田植え大会 A：植え付けの実践 B：適切な行動・判断 C：適切な態度

【主体的に学習に取り組む態度】

①実習点 実習を安全に行おうとする意識

- A：実習に必要な身だしなみを整え、周囲の安全に気を配りながら、片付けや清掃も積極的にできる。
B：実習に必要な身だしなみを整え、周囲の安全に気を配りながら、片付けや清掃を行うことができる。
C：片付けや清掃を行うことができる。

②レポート 学ぶ意欲

- A：実習から課題を見つけ、その課題解決を図ろうとしている。
B：実習から課題を見つけることができる。C：課題を見つけようとしていない。

③実習の準備と後片付けの状況 A：30点換算し、24点以上 B：23～10点まで C：9点以下

④農業クラブの意見発表の原稿 A：30点換算し、24点以上 B：23～10点まで C：9点以下

⑤発表の様子、ノート点、態度、意欲 A：合計が70点以上 B：35点～70点未満 C：35点未満

⑥実習レポート

- A：説明内容や実習内容のほか、自ら調べた内容などの努力が見られる。
B：実習内容を最低限記載している。C：期限内に提出することが出来ない。

⑦実習への取り組み

- A：前向きに実習に取り組む、積極的に学び取ろうとする態度が見られる。
B：指示内容に取り組むことが出来る。C：指示内容に前向きに取り組むことが出来ない。”

⑧農業鑑定事前学習ノート 農業鑑定テストの事前学習ノートが

- A：一定以上の取り組み成果が認められる。B：合格点に達している。C：不十分な場合。

⑨実習態度点

- A：指示通りに実習でより効率的な実習にするための取り組みが認められる。
B：指示通りに実習を行える。C：指示通りに実習を行えない。

⑩学習記録カード

- A：栽培・飼育・加工に関する基礎的な知識と技術について自ら学ぶことができる。
B：栽培・飼育・加工に関する基礎的な知識と技術について自ら学ぼうとしている。
C：Bを満たしていない。

⑪果樹園の農業生産工程管理

- A：カンキツ類の栽培管理に必要な作業について、明確に理解し、主体的かつ協働的に取り組んでいる。
カンキツ類の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について明確に理解し、自ら学び主体的かつ協

働的に取り組んでいる。

B：カンキツ類の栽培管理に必要な作業について、理解し、主体的かつ協働的に取り組んでいる。

カンキツ類の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について理解し、自ら学び主体的かつ協働的に取り組んでいる。

C：カンキツ類の栽培管理に必要な作業についての理解が不十分で、主体的かつ協働的に取り組むために支援が必要。カンキツ類の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理についての理解が不十分で、主体的かつ協働的に取り組むために支援が必要。

⑫実習記録の作成

A：実習の目的、内容、留意点が明確にまとめられている。

B：実習の内容がまとめられ、期限内に提出できた。

C：実習内容の記述が不十分で、期限内に提出できなかった。

⑬態度点

A：班をまとめて率先して活動できた。B：主体的に実習に取り組んだ。

C：自ら考えて取り組むことが難しい。

⑭実習服の着用ができていないか。

A：忘れ物がなく、実習中、適切に着用できている。

B：実習中、帽子などをとるなど、適切な着用ができていない。C：実習服を忘れて、着用ができていない。

⑮座学時の態度が適切であるか。

A：積極的に質問をしたり、自分の意見・考えを述べたりすることができる。

B：静かに授業を受け、板書ができていない。C：授業への参加ができていない。

⑯農業鑑定過去問の演習

農業鑑定過去問の演習を A：4回以上行っている。B：1～3回行っている。C：行っていない。

⑰実習日誌記録

A：自ら進んで実習に取り組み、協力することができた。B：興味を持って実習に取り組めた。

C：実習に取り組めた。

⑱実習レポート

A：文字だけでなく、絵や図を用いてまとめている。また、関連する内容を自主的に調べ記載できている。

B：実施した内容をまとめている。C：提出遅れ・未提出

⑲態度点

A：班をまとめて率先して活動できた。B：主体的に実習に取り組んだ。

C：自ら考えて取り組むことが難しい。

⑳農業クラブ点

A：鑑定競技点が高い。B：鑑定競技点が平均。C：鑑定競技点が高い。

A：意見発表原稿がきちんと書ける。B：意見発表原稿がとりあえず書けた。C：意見発表原稿が書けない。